

異次元の強さ！ 全レースを制した完全勝利



六月七日、八日に久々子湖で行われた春季総体ロイング競技に美方高校ボート部が出場し、男子舵手付きクオドルプル、女子舵手付きクオドルプル、男子ダブルスカル、女子ダブルスカル、男子シングルスカル、女子シングルスカルの全種目で優勝を果たし、広島インターハイへの切符をつかみ取った。

舵手付きクオドルプル

男子舵手付きクオドルプル予選では、後半に他チームの追い上げを許してしまふ展開となったが、最後は一位の座を譲らなかつた。



若狭高校と健闘する男子クオド

決勝では、ラストスパートで他チームを引き離し見事優勝を勝ち取った。中村祐陽さんは「練習し始めたときは漕ぎが合わず、ズレがあったため何回もミーティングを重ねた。自分たちが勝ち上がったからには一緒にレースをした選手たちに恥じない漕ぎをし、インターハイ優勝を目標に頑張りたい」と意気込みを語った。女子舵手付きクオドルプル決勝は、圧倒的な差をつけて中間地点を一位で通過し、約一分差で優勝した。満



勢いのある漕ぎで圧倒する女子クオド



中世古



伊藤

男子ダブルスカル決勝では、インターハイ出場権獲得をかけて若狭高校との熱い戦いに美方高校Aが勝利を収めた。竹中琥大さんは「練習でかなり漕ぎこんだことで、集中力が上がり中盤のキレが出た。レースは難しく苦しかったが、勝ったことで自信につながった。北信越総体でまた若狭高校との戦いがあるので自分たちをレベルアップ

ダブルスカル

男子シングルスカル決勝には美方から三クルーが出場し、伊藤大陽が粘り強い漕ぎで一位となった。上野晴生は諦めず伊藤を追いかけ二位でゴールした。伊藤は「オールを変えて水月湖で倒れるまで追い込み練習をした。次も天辺目指し、真っ向勝負してインターハイで優勝したい」と語った。

シングルスカル

田美央さんは「身長も経験もバラバラなクルーで漕ぎを合わせることを一番に考えた。まだまだ先輩を越えられるレベルではないので更なる上を目指したい」と話した。



接戦を制した男子ダブル



貫緑の女子ダブル

清水先生のコメント

春季総体で全種目(六種目)優勝するというのは過去にない最高の結果だった。レベルの高い福井のボートを制したというのは、次のインターハイに向けた大きな弾みになると思う。しかし、夏のインターハイはコンマを争う熾烈な戦いになる。よりタフなフィジカルを身につけ、チーム全員で更なるスピードを追求し、天辺を目指したいと思う。まだまだ通過点、ボートの部の本場の戦いはここからスタートだ。

剣道 全力で挑んだ 魂の一本

六月六日から八日にかけて、福井県立武道館で春季総体が開催された。男子団体は初戦、福井高専に、五〇で快勝したが、準決勝では敦賀気比と、本数差により惜しくも敗退した。女子団体は初戦、啓新に次鋒が一本を先取りし、大将が二本を奪い試合を制した。準決勝では北陸と対戦し、一対一で代表選に突入したが、惜しくも敗れた。結果、女子団体は第三位となり、北信越総体への出場を決めた。



冷静に構える川端主将

顧問の西川先生は「人では今年も二回戦目に残ったが北信越に行けず今後の課題になった。団体では男子は優勝を狙えるチームだったため残念な結果だった。女子は、北信越大会に行けたので良かった。今後は、二年生がチームの核となって頑張ってもらいたい」と思いを語った。

- 【試合結果】
 男子団体(一回戦)
 美方vs福井高専〇五二〇
 (準々決勝)
 美方vs敦賀気比●一一一
 (本数負け)
 女子団体(一回戦)
 美方vs啓新〇二二〇
 (準々決勝)
 美方vs北陸●一一一
 (代表戦)



一本を狙う安藤主将

サッカー部 一専心!

五月三十日から六月八日に春季総体サッカー競技が行われた。一回戦は三国運動公園人工芝で武生商工高校と戦った。前半戦、後半戦ともに〇―〇だったが、後半延長戦で隙を突かれ、〇―一で惜しくも初戦敗退となった。



全力でスローイン!!

顧問の松村先生は、「三年生は今までのいろいろな苦労が多かったが今回の試合では最後まで集中

し、三年生全体では最後の試合に白熱した集大成のような試合を見せてくれた」と三年生たちをねぎらった。

副顧問の木谷先生は、「武生商工は実力として



一致団結して挑むサッカー部

を語った。また後輩には「諦めず、がむしゃらに食らいつく美方らしいプレースタイルを引き継いで欲しい」と激励の言葉を送った。

ソフト部 完全燃焼! 一球に悔いなし

六月七日に敦賀きらめきスタジアムで春季総体ソフトボール競技が行われた。一回戦の相手は啓新高校。結果は一―一で惜しくも初戦敗退。レベルの高い相手に点数を取られながらも、後半仲寫日菜乃(三年)のホームランにより会場は大いに盛り上がりを見せた。選手たちは苦しい場面もお互いに励ましあいながら最後まで粘り強く



一球に集中し構える仲寫選手

戦い抜いた。主将の吉岡みな希さんは大会を振り返り「強豪・啓新高校との対戦だったが自分たちらしい試合をすることができ、今まで一番良い試合になった。

たくさんの応援をありがとうございました」と大会を振り返り、後輩に向けて「一、二年生には感謝の気持ちでいっぱい。これから悩みや上手いかないこともあると思うけれど、自分たちらしくソフトボールを楽しんでほしい。応援しています」と語った。顧問の高岸先生は「夏に向けて頑張ったことが大会で発揮されたことは自信になったと思う。美方高校の伝統である元気の良さは今回復た自信を胸に、未来に向かって突っ走れ!」と三年生へエールを送った。